



一般社団法人 高知県作業療法士会
会員数 724名 (平成30年7月末現在)

一般社団法人 高知県作業療法士会ニュース

134号
発行2018.8.22

発行所: 一般社団法人
高知県作業療法士会 広報局
事務局: 〒780-0870
高知県高知市本町5丁目6-48
本町深田ビル5階 南号室
<http://kochiot.com>

発行 平松 真奈美
編集 森 祐輔

平成30年度総会を終えて

会長 平松 真奈美 (高知リハビリテーション学院)



平成30年度の総会において、議案を会員の皆様に承認いただき、新しい年度の事業が具体的にスタートします。事業計画にあるように、地域包括ケアシステムの構築に向けた動きに加え、理学療法士作業療法士養成施設指定規則およびガイドラインの見直しや、障害児・者への支援施策が次々と行われます。地域社会への貢献に向けた会員の資質向上と、必要とされる人材育成のための土台作りを、さらに進めていくことが求められています。事業運営をより円滑に行うために、定款の変更を行いました。主な点としては、予算案を理事会承認とし、年度の開始月から運用できるようにしたことです。今年度は総会の承認後からのスタートですので、実質は来年度から従来6月からスタートしていた事業を、2ヶ月早い4月から開始することができ、1年間を通しての運営となります。各事業が集中することなく、会員の皆様がより参加しやすい体制になるようにしていきます。

作業療法士の参画が求められている地域包括ケアシステムに関連した事業が、各市町村において始まっています。士会では、昨年度よりこの事業に関連した研修会を実施してきました。今年度は、さらにステップアップができるよう、より実践的な内容となります。多くの会員の皆様が、これらの事業に参画できるように、しっかりと取り組んでいきます。

また、理学療法士作業療法士養成施設指定規則およびガイドラインの見直しが行われます。平成32年度入学生よりの適用ですが、これにより臨床実習指導者の要件が、従来の経験年数だけではなく、臨床実習指導者研修を受講することが必要となります。後輩育成は、職能団体として重要な役割です。(一社)日本作業療法士協会は、作業療法臨床実習指針(2018)・作業療法臨床実習の手引き(2018)を作成しました。養成校と臨床実習指導者の連携のもと、学生へのより良い教育が提供できるよう、会員の皆様が臨床実習指導者として活躍できる準備を進めていきます。

研修会、その他事業に関する様々な情報については、ホームページに順次掲載します。会員個人が速やかに情報を得ることができるよう、ホームページの掲載内容も検討し、刷新していきますので、積極的に活用してください。会員の皆様のご意見・ご要望もお待ちしております。

昨年度は組織改編を実施し、事業運営の進め方を抜本的に見直しました。まだ1年しか経過していませんので、試行錯誤の面もありますが、しっかりと振り返りを行い、組織としての基盤を整えていきます。また、今年度は役員改選の年であり、新しい理事とともに、各部・委員会一同が協力して会の運営を進めていきます。会員の皆様のご理解とご協力を、何卒よろしくお願いいたします。



新理事挨拶

学術局 担当理事 佐藤 誠 (愛宕病院)



今年度から理事に就任しました愛宕病院の佐藤誠と申します。微力ではありますが(一社)高知県作業療法士会の発展に力を尽くしたいと思います。

今回、学術局の担当で主に生涯教育部を担当させていただくことになりました。私たち作業療法士は学術研鑽を継続していき専門性を高めていかなければならないと考えています。そのためにも質の高い研修会の提供はもちろんのこと会員の皆様が参加しやすい場の提供も必要ではないかと考えています。

今後とも、会員の皆様のご支援とご協力を頂戴しながら士会の発展のため励んでいきたいと願っています。何卒、よろしくお願い申し上げます。

広報戦略部 担当理事 竹上 寿彦 (海辺の杜ホスピタル)



皆様、今年度より理事を務めさせていただきます、海辺の杜ホスピタルの竹上寿彦と申します。

今年度より広報局を担当させていただくことになりました。広報局は広報編集部と広報戦略部で構成され、よさこいニュースなど広報誌の発行や地域の健康イベントで広報啓発活動などを行っております。作業療法士は人々の健康と幸福を促進するための専門職であることを自覚し、作業療法が多職種や県民の皆様が必要とされるよう広報啓発活動に邁進する所存でございます。また会員の皆様

に有意義な情報を迅速に提供できるよう尽力いたします。

ぜひ皆様が広報したい企画やアイデアがあればいつでもinfo@kochiot.comまでご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

特別支援教育部 担当理事 國友 晃 (愛宕病院)



今期より理事を務めさせていただくことになりました愛宕病院の國友晃と申します。

これまでの県士会活動を通して作業療法士という職種と専門性を社会に認知していただく重要性を強く感じています。その理由は、特に高知県はこれから迎える少子超高齢者社会を支えるために地域包括ケアシステムの整備が進んでいるためです。さらにこの流れに対応し地域で能力を発揮できる人材育成が一つの重点課題です。その他にも学校教育分野から作業療法士の支援の需要が多く、この

ような要請にも対応できる人材育成も急務の課題であると感じています。

未熟者ではありますが皆様が多様な場で活躍できるよう、ご助力をいただきながら務めてまいりたい所存です。よろしくお願い申し上げます。

~広報編集部トピックス~

地域で活躍できる作業療法士育成を

平成30年7月7日(土)に土佐リハビリテーションカレッジにて平成30年度地域包括ケアシステムに関する説明会が開催されました。参加者は25名で前年度参加人数を合わせると63名になり、関心の高さが視えました。

(一社)日本作業療法士協会は第三次作業療法5カ年戦略(2018-2022年)を策定し、作業療法士が医療・介護のみならず保健・障害福祉の領域も含めた地域包括ケアシステムに寄与できるよう、学術・教育・制度対策の各側面からの活動をさらに強化していくことを掲げています。高知県でも地域包括ケアシステムにおけるリハ専門職に期待される部分は大きく、特に生活支援・介護予防に関して「活動と参加」に焦点をおいて対象者の生活をマネジメントできる作業療法士への期待も大きくなってきています。その期待に答えるために地域ケア会議・総合事業・認知症初期集中支援への参画を進めていくことが重要となります。



説明会では地域包括推進部の4つの班(地域ケア会議班・介護予防班・認知症班・生活行為向上マネジメント(MTDLP)班)から平成29年度の活動報告と平成30年度の活動予定の報告があり、作業療法士の職域拡大、地域包括ケアシステムに参画していくために会員の協力をお願いしたいと熱く語られました。有光部長からは、今年度も参加者枠を管理職、臨床経験10年以上の方に絞ったのは、地域に作業療法士を派遣してもらうために管理職の方々が必要を理解して、後押しをしていただければという思いからだと言いました。

急激な社会制度の変化に対応しながら、必要とする人たちに十分なりハビリテーションサービスを提供できる環境づくりの実現のため、また作業療法全体の社会的地位向上のために作業療法士として何ができるのかを考える機会となりました。医療機関で勤務されている会員も多い現状ですが、地域の事業に参画し実際に体験してみて、地域で生活していくために適切なアプローチが提供できるきっかけになると思います。内容的に盛り沢山で、時間があればもっとじっくり話を聞きたかったです。生活行為を向上するアドバイスが出来るのは、作業療法士の強みであると思います。社会のニーズに対し、作業療法士として可能な限り応えていけるよう、ぜひ研修会に参加することをお勧めしたいです。

文責：広報編集部員 松岡

広報局からのお知らせ

士会からの情報発信は、ペーパーレス化に向けて、ホームページへ積極的に掲載しております。士会主催や外部の研修会、士会イベント情報、広報局で作成した広報誌や過去のよさこいニュースなどを掲載しております。

スマートフォンでの閲覧でもみやすくなっております。会員の皆様は適宜ホームページの確認をお願いいたします。

ホームページアドレス：<http://kochiot.com/>

